

医療の現場から

（公立尾陽病院をより知っていただくために…）

摂食・嚥下障害について

公立尾陽病院

摂食・嚥下障害看護認定看護師小酒井 千代美

私たち健康な人間にとって、口から食べるということには意識することなく当たり前に行っている行為です。口から食えるということは、生きていくための重要な栄養補給だけでなく、食べる楽しみや脳の活性化、口腔の自浄作用、免疫力の向上など人間にとっていいことばかりです。

この当たり前の食えるという行為が困難になることを摂食・嚥下障害といいます。主に脳出血、脳梗塞などの脳血管障害後の後遺症とパーキンソン病、筋萎縮性側索硬化症などの神経筋疾患、また舌がん、喉頭がんなどによる器質的問題、加齢から来るものなどさまざまな原因が挙げられます。

近年、高齢者による誤嚥性肺炎が急増しており、当院においても高齢者の肺炎での入

院は、検査をしてみるとほとんどが摂食・嚥下障害による誤嚥性肺炎です。これは加齢に伴い、摂食・嚥下機能関連の筋力の低下や知覚の低下、呼吸筋の低下が大きな要因になります。

さらに、過去に脳血管障害を発症した方は、摂食・嚥下障害のリスクが高くなります。

一般的に誤嚥性肺炎を繰り返すことで口から食えることを断念され、チューブによる栄養管理が多いようです。

当院では、安全に口から食えることにこだわり、スクリーニングテストや嚥下内視鏡・嚥下造影を行い、摂食・嚥下機能の評価をして障害がある所へのリハビリテーションをチームで取り組んでいます。チーム活動を行ってから、全く口から食べられなかった

方が食べられるようになったりと成果は上がっています。私どもは、患者様にどのような障害があっても、一口でも好きな物を食べていただくように活動を続けていきます。

「食事中によくむせる」「食欲がなくなった」「体重が減った」「肺炎を起こしたことがある」などの症状の方は、摂食・嚥下障害の恐れがあるため、検査をされた方がよいかと思

います。当院の医療看護相談室をご利用ください。

問い合わせ先

公立尾陽病院

〒490-1111

甚目寺町大字甚目寺字

山ノ浦148番地

・問い合わせ時間

午前8時30分

午後5時15分

※土日・祝日は除く

☎(444)0050

※医療看護の相談に対するお問い合わせは、内線211の医療看護相談室までお願いします。

HP FAX
www.blyo-hosp.jp/ (444)0064

歯の健康講座

Dental Health

海部歯科医師会

『フッ素の虫歯予防』

虫歯予防のために、歯医者さんでフッ素を塗ってもらったりフッ素入り歯磨き剤が使われたりしています。

でも、どうしてフッ素で虫歯予防ができるか知っていますか。

フッ素は、エナメル質の結晶を耐酸性の強い結晶に作り替え、脱灰（カルシウムが溶け出すこと）しづらくします。

また、歯垢中の虫歯原因菌の酸生産能力を阻害します。それらのことで虫歯予防に使われています。

他のフッ素を使った方法として、フッ化ナトリウム水溶液を使つてうがいをする『フッ素洗口』があり、一部の学校で行われています。

歯科医院で行う『フッ素塗布』、家庭で行う『フッ素洗口』などは、用量、用法、間隔などを正しく守ることで大変効果が出ると思われます。かかりつけの歯医者さんで相談してみてください。

『フッ素で、斑状歯（歯の表面に白や茶色の斑点があり、時にはくぼみや小さな穴が開いていることもあります）になる。』と聞くことがあります。歯冠（歯の頭の部分）がつくられるとき（永久歯であれば8歳ごろまで）に普通では考えられないほど多くのフッ素を摂取したときに現れます。

『フッ素塗布』『フッ素洗口』はフッ素を食べたり飲んだりするものではなく、歯の表面に作用させ、そのほとんどを捨てています。安心して虫歯予防に使ってください。

ストップ・ザ 交通事故
ダイエット 一緒に落そう スピードも